

2 . 土質試験

作業内容

1) 砂

ケーソンから1m、5m 及び10m 離れた箇所のG.L.- 0.5、- 1.5、- 2.5 及び雑石層内部の砂をサンプリングする。

サンプリングした砂について粒度試験を行い、粒径加積曲線を求める。

サンプリング位置は、図 - 1 のとおりである。

2) 雑石

雑石の天端は、ほぼ海面付近であるため、大潮の干潮時に、水置換法によって雑石の単位体積重量を測定する。採取した雑石について粒度試験を行い、粒径加積曲線を求める。

試験位置は、事故があった地点付近と最南端付近の 2 箇所とする。

試験項目と数量は以下のとおりである。

現場密度試験（水置換法） 3 点 × 2 箇所 計 6 地点

雑石天端を掘り出して表面を整形し、この上に 1 辺 1m の正方形の枠を水平に置く。この枠の中を人力により 30 ~ 50 cm 掘削し、採取した土砂について分級する。特に 75mm 以上の礫については 1 個ずつ掘り出し、フルイ目を通して分級するとともに、重量を測定する。採取した土砂はすべて試験室に持ち帰り、土質試験に供する。

削終了後、シートを敷き、このシートの中に海水を入れ海水が入った量により、掘削した体積を求める。海水については比重を測定し、入った重量から体積を求める。

大型粒度試験

6 試料

75mm 以上の礫については、現地で分級とともに重量を測定する。
75mm 以下の土砂については通常の粒度試験を行い、これらの試験から全体の粒径加積曲線を求める。

土粒子の密度試験 6 試料

レキのカサ比重及び吸水率試験 1 式

含水比試験 1 式

間隙率を出すために、礫や土粒子の比重及び含水比を求める。石の材料や大きさ等により値が異なると想定されるため、採取した材料を見た上で試験数量を決定する。

確認事項

1) 砂

粒径加積曲線を図 - 2 に、均等係数の分布を表 - 1 に示す。

2) 雑石

現在試験中である。

土質試験 サンプル位置図

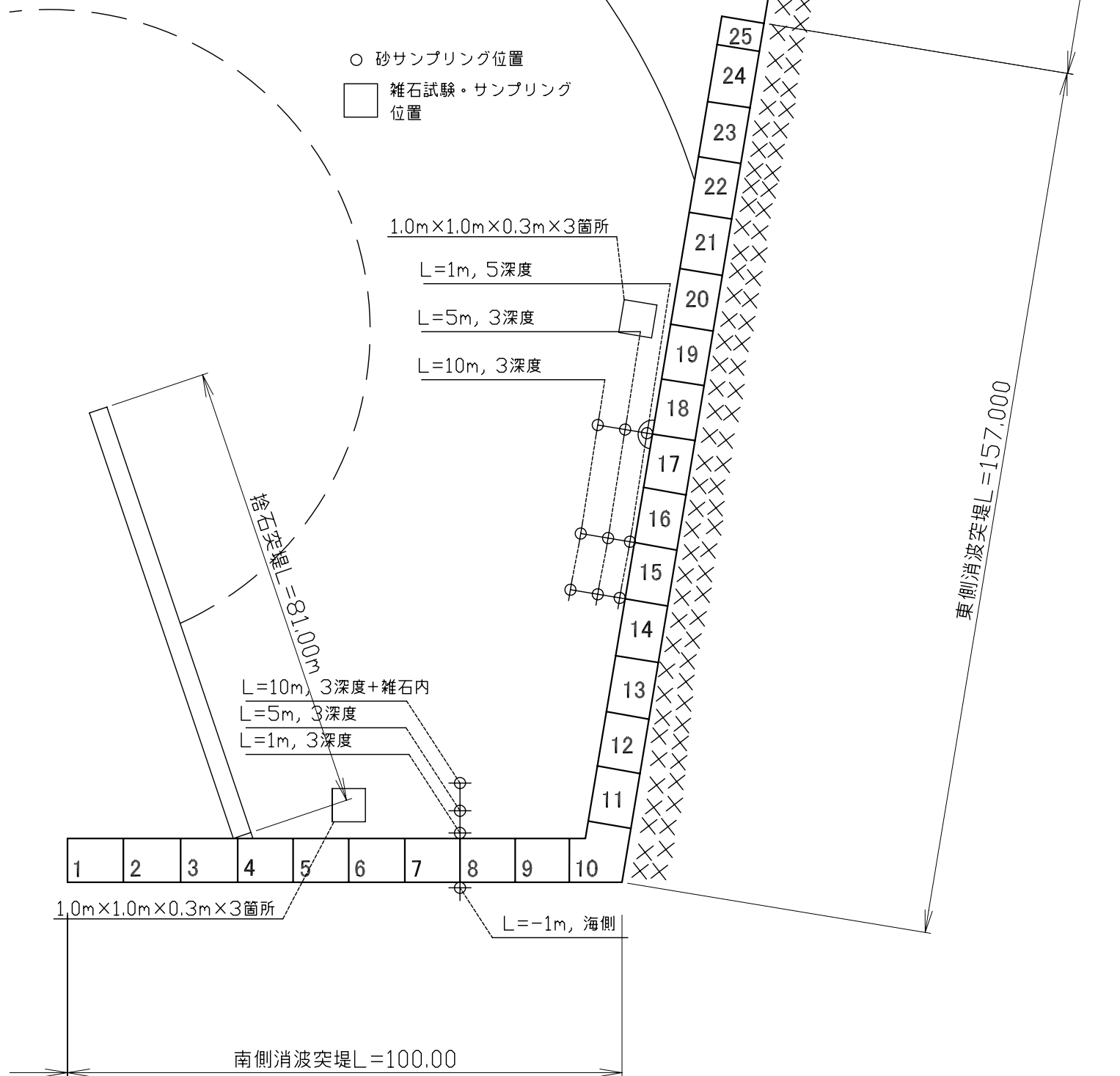


図 - 1 サンプル位置図

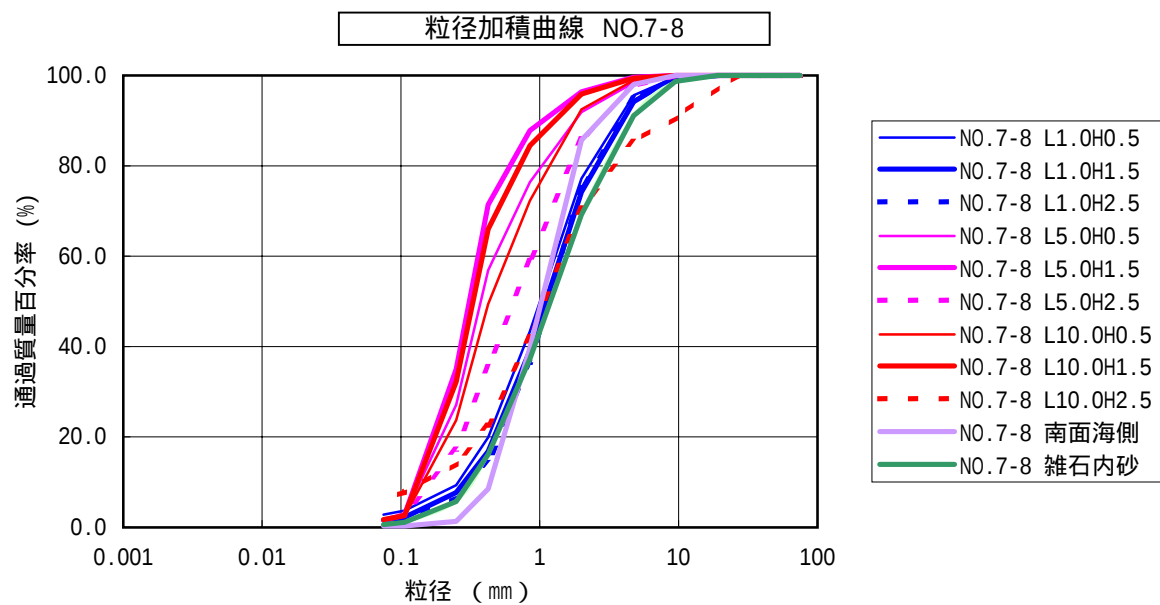
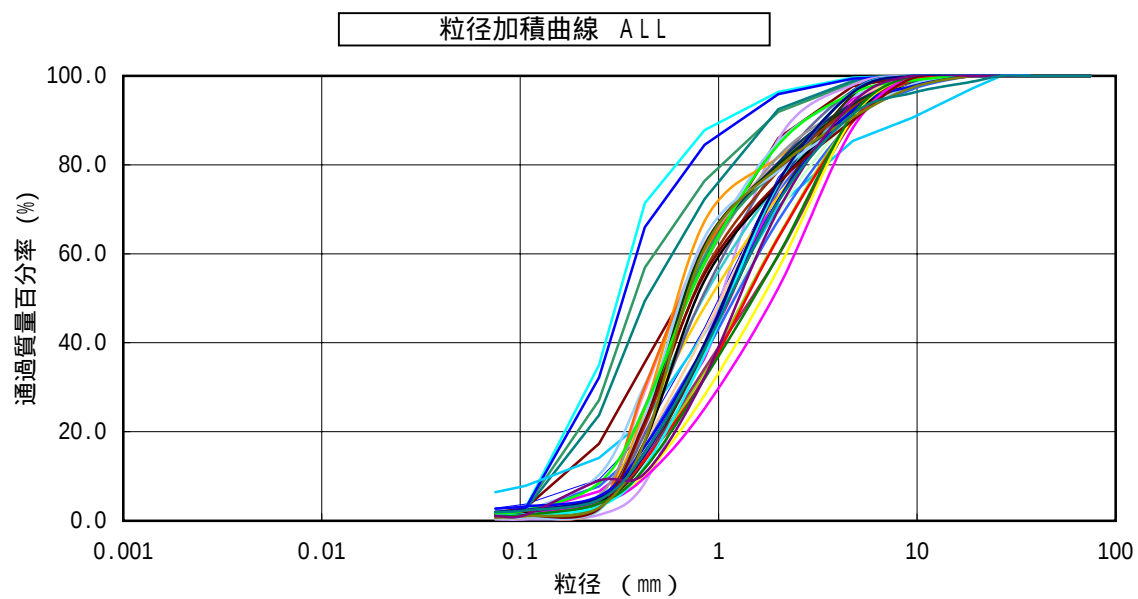


図 - 2(1) 粒径加積曲線

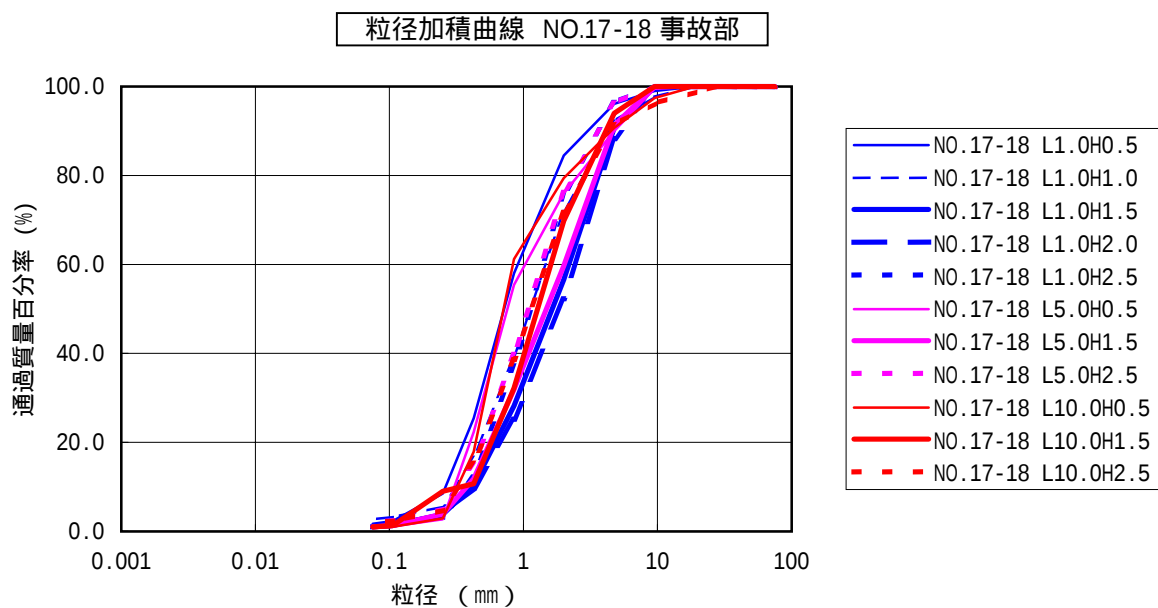
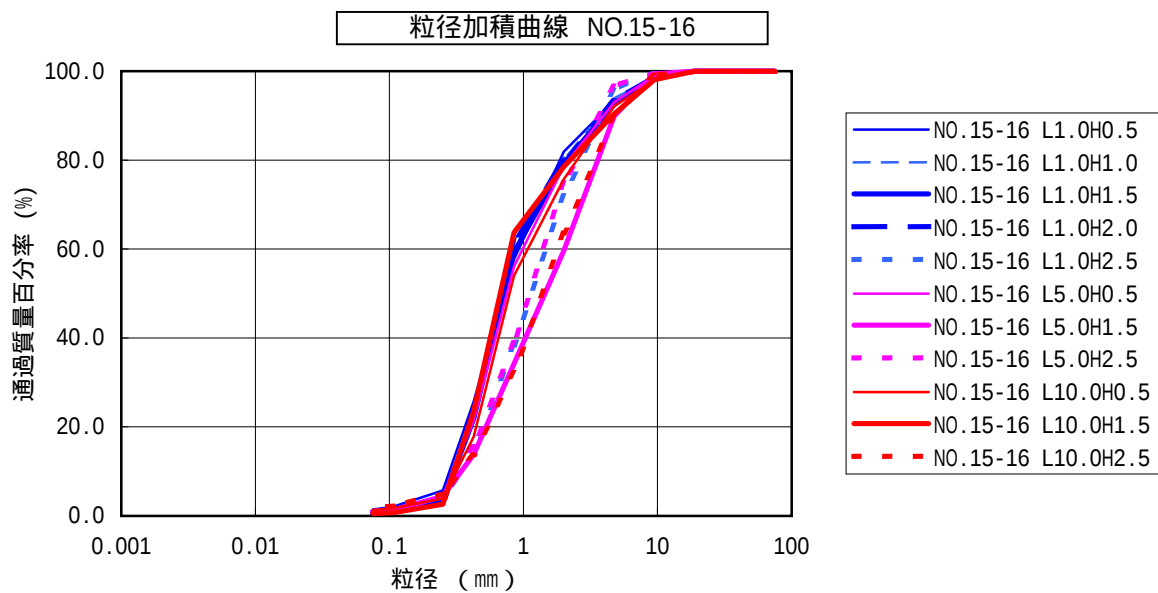
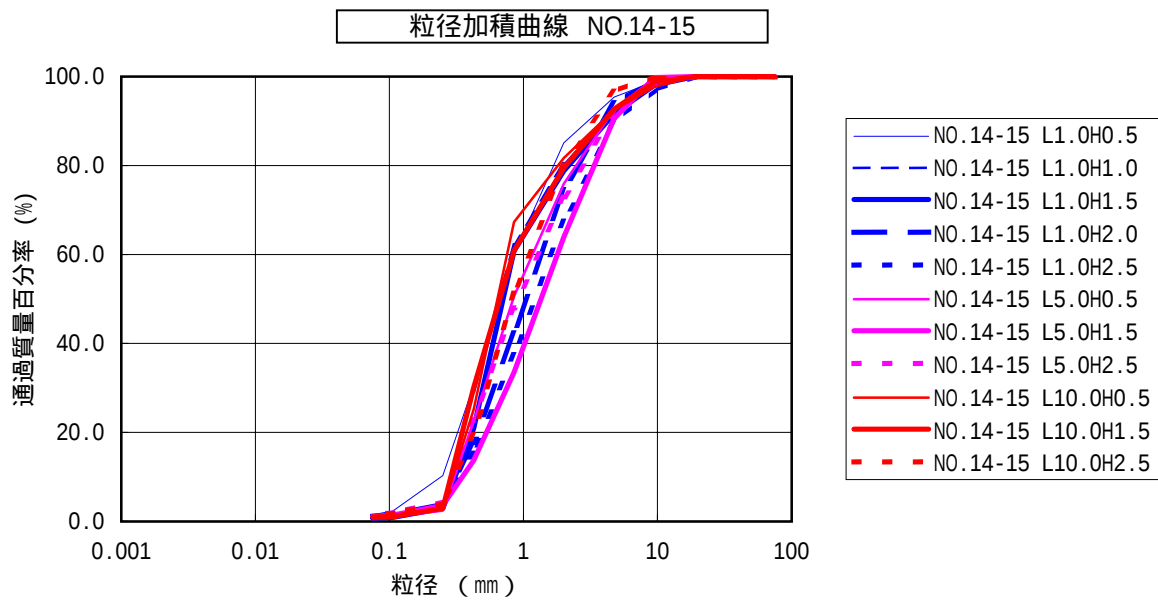


図 - 2(2) 粒径加積曲線

表 - 1 均等係数Ucの分布

NO.7-8

	ケーソンからの距離		
深度	L=1.0m	L=5.0m	L=10.0m
H=0.5m	5.19	3.50	4.00
H=1.0m	---	---	---
H=1.5m	5.17	2.64	3.08
H=2.0m	---	---	---
H=2.5m	4.69	5.18	10.00
雑石内			5.00

L=-1.0m (海中)
2.89

NO.14-15

	ケーソンからの距離		
深度	L=1.0m	L=5.0m	L=10.0m
H=0.5m	3.48	4.00	2.53
H=1.0m	2.83	---	---
H=1.5m	2.71	5.14	2.90
H=2.0m	4.38	---	---
H=2.5m	5.15	4.33	3.87

NO.15-16

	ケーソンからの距離		
深度	L=1.0m	L=5.0m	L=10.0m
H=0.5m	3.29	3.33	3.75
H=1.0m	2.93	---	---
H=1.5m	2.97	5.71	2.67
H=2.0m	2.77	---	---
H=2.5m	4.29	4.55	5.14

NO.17-18 事故部

	ケーソンからの距離		
深度	L=1.0m	L=5.0m	L=10.0m
H=0.5m	3.33	3.55	4.00
H=1.0m	5.00	---	---
H=1.5m	5.24	5.00	4.86
H=2.0m	5.81	---	---
H=2.5m	3.95	4.24	5.00